

2025年1月24日 第3498回例会

於： 横須賀商工会議所



<点鐘・開会> 12:30 高橋 会長

<斉 唱> 「それこそロータリー」

<ゲスト紹介> **海上自衛隊横須賀地方総監部 幕僚長 金 刺 基 幸 海将補
*海上自衛隊横須賀地方総監部 総務課 足 立 輝 1等海尉
*ロータリー奨学生(グローバル補助金)候補者 小野寺 航 大 様
* (有)光陽社 取締役副社長 松 川 太 郎 様
* (株)SSウェブデザイン 代表取締役 堀 川 泰 輝 様

<会 長 報 告> *第1グループ会長・幹事会 報告

・マイロータリー登録のお願い (横須賀ロータリークラブの登録率は現在68%)

*ガバナー事務所より

・IA委員会・アクターズミーティング開催のご案内について

2月 8日(土) 13:00~13:30 IA委員会

14:00~17:00 アクターズミーティング

場所：県立スポーツセンター「スポーツアリーナ2・フェンシングフロア」

・地区ローターアクト委員会開催のご案内

2月16日(日) 13:00~ 場所：第一相澤ビル3F「会議室」

・第12回全国インターアクト研究会・長野会議開催のご案内について

4月26日(土) 11:50 受付開始

27日(日) 12:30 終了 場所：ホテルブエナビスタ3F グランデ

<ロータリー奨学生候補者紹介・挨拶> 鈴木(豊)カウンセラー紹介 小野寺様ご挨拶

<委員長報告> *小山(陽)会員より危機管理セミナー報告

<幹事報告> *ガバナー月信 No. 7

*例会終了後 会員増強・会員維持委員会 開催

<出席報告> *出席委員会 笠木委員より1月24日の出席報告

会 員 数	出席対象者数	出席数(ZOOM出席数)	欠 席 数	メイクアップ数	出 席 率
117名	106名	63名(1名)	43名	6名	64.496%

メイクアップ：小沢、森 両会員 RI会長エレクト歓迎晩餐会出席

小林(一)、鈴木(孝)両会員 理事役員会出席 角井、萩原両会員 RAC例会出席

<ニコニコ報告>

- ・三 役 海上自衛隊横須賀地方総監部幕僚長 金刺基幸海将補、総務課 足立輝1等海尉、ようこそ横須賀ロータリークラブへお越しくございました。金刺幕僚長、本日の卓話どうぞ宜しくお願いいたします。
- ・大 石、木 村、田 中、梁 井、岩 崎、八 巻、笠 木、齋藤(豊)、吉田(久)、椿、濱 田、鈴木(功)、植 田、北 村、小 平、江 口、渡 辺、松本(朝)、勝 見、鷺 尾、久保田、徳 永、杉 浦、江 沢、瀬 戸、野 阪、小佐野、澤 田、根 岸、小保内、藤 村、杵 渕、齋藤(真)、前 田、齋藤(真) 各会員
海上自衛隊横須賀地方総監部幕僚長 金刺基幸海将補、お忙しい中ようこそ横須賀RCへお越しいただきました。本日の卓話どうぞよろしくお願いいいたします。
- ・三 役 ロータリー奨学生グローバル補助金候補者 小野寺航大様、ようこそ横須賀RCへ。今後の益々のご活躍をクラブで応援していきます。
- ・石 田、鈴木(豊)、梶 木、植 田、久保田、齋藤(真) 各会員 ロータリー奨学生グローバル補助金候補者小野寺航大様、ようこそお越しくございました。ごゆっくり例会をお楽しみください。
- ・佐久間 会員 松川さんようこそ。

- ・小保内、久保田、野坂 各会員 誕生月祝いとして
- ・岡田(隼)、小山(颯)、加藤(隼)、八木、八巻、長尾、濱田、植田、寺田、久保田、権田、大野(颯)、山下、齋藤(眞)、齋藤(隼) 各会員
国際奉仕委員会活動の「ネパール国における安全な飲料水の給水プロジェクトについて」がR I財団の正式承認が下り本格的に動き始めます。水の出ない地域に給水が出来る感動を皆で分かち合いたいですね。
- ・齋藤(隼) 会員 明日は釣り部有志にて、メダイ・アマダイ釣りに行って来ます。大漁！
- ・木村、濱田、比護、小山(颯) 各会員 イチロー氏が米国野球殿堂入りをしました。おめでとうございます。来年度も多くの選手が大リーグに挑戦するようで、ますます活躍が楽しみになりますね。

<卓 話> ～ 横須賀地方隊について ～

海上自衛隊横須賀地方総監部
幕僚長 金刺基幸 海将補

皆様こんにちは、横須賀地方総監部幕僚長の金刺と申します。

本日は海上自衛隊横須賀地方総監部についてお話ししたいと思います。自身の経歴についてですが、大体3分の1が水上艦艇で洋上勤務をしておりました。3分の2が陸上勤務です。30年勤務し20回引越しをしております。

はじめに宣伝させて下さい。昨年12月27日に海上自衛隊基本ドクトリンを公表しました。このドクトリンは、海上自衛隊の任務の性質を踏まえつつ、任務遂行に際して準拠すべき考え方を、自衛官、事務官、技官、教官を含む全ての海上自衛隊員に広く共有することを目的としたものです。海上自衛隊員総員がドクトリンを活用し任務に邁進することを期待するものであります。内容は目次からもおわかりになるとおり、海上自衛隊がどうあるべきかを示すもの



です。海上自衛隊の任務遂行や個々の隊員が職責を果たす上で準拠すべき事項や考え方を示すものです。海上自衛隊員総員の理解を図るため、内容については一部を除き、広く一般の方々にもご覧頂けるようネット上にも公開しています。検索アプリで“海上自衛隊基本ドクトリン”と検索して頂ければ、どなたでも閲覧出来ますので、ご興味がある方は是非ご覧下さい。

ここから私の得意分野である機雷掃海についてお話をします。私の愛読書に、昨年11月12日にお亡くなりになりました故阿川尚之さんの著書、『海の友情』という本があります。内容は、戦後海上自衛隊が誕生するに至るまで、米海軍軍人がいかに関わったのか、日本がどのように復興を遂げたがまとめられています。特に戦後の掃海業務がいかに戦後復興に関わったのかという部分は、掃海部隊出身の私としては感動を覚えるものがありました。本書に登場するジェームス・アワーという元米海軍軍人も昨年5月16日にお亡くなりになられており、本書の著者とその本に登場する人物が同じ年に亡くなれば、何か不思議な思いを感じます。

そこでこの場を借りて、戦後日本で起きたことについてお話をさせて下さい。戦時中、米国が日本本土周辺海域で機雷を敷設する作戦を行いました。これは対日飢餓作戦と呼ばれ、1943年3月頃から開始され、作戦の目的は日本周辺や大陸沿岸の航路・港湾を封鎖することで大陸との交通を遮断する事でした。結果、石油・鉄鉱石といった資源の輸入に影響を与え、重工業の弱体化・日本国民の飢餓を招きました。これらの機雷により約66万トンの船舶、およそ300隻が沈没し、約68万トンの船、約400隻弱が損傷し

ました。終戦近くの約5ヶ月の間には、太平洋戦争で失われた全船舶の約1割に当たる船舶を損失するという甚大な被害を受けました。なお、米海軍機雷戦史によれば、もしあと1年本作戦が続けば、日本本土の人口約7,000万人の1割に当たる700万人が餓死したに違いないと報告されています。本作戦でB-29は約1万2000個の機雷を投下。そのための使用機数は延べ1,500機に達しましたが、太平洋戦争のB-29の総出撃数のわずか6%に過ぎなかったとも言われています。戦後、米海軍の機雷敷設の効果については、B-29が全体の94%の努力を費やして実施した日本の工業地帯に対する爆撃と、全く同様の結果をもたらしたとされています。つまり、少ない兵力で大きな打撃を与えたという評価です。太平洋戦争中に日本周辺海域に構築された米国による対日飢餓作戦による機雷原は約1万2000個、一方、我が国が対潜水艦防御のために構築した機雷原は約5万5000個です。

ここでこれらの機雷に対し、戦後我が国が行った掃海業務について説明致します。昭和20年8月15日に日本はポツダム宣言を受諾します。終戦の17日後の9月2日、降伏文書への調印と同時に占領軍一般命令第一号が発令され、これには掃海作業の実施が含まれていました。これが戦後復興のための航路啓開業務の始まりとなります。航路啓開とは、航路から敷設された機雷を掃海作業により除去することを言います。GHQは当初、旧海軍士官を追放しようとしていましたが、この掃海作業の必要性から追放できなくなりました。

航路にどのように機雷が敷設されたかを説明します。関門海峡には約4,700個の沈底機雷があります。沈底機雷とは、海底に沈んでその時をひっそりと待つ機雷の事です。これが主として敷設され、約200隻の船が触雷つまり機雷により爆発しました。戦後の航路啓開業務は1985年までの40年間実施され、その間に15隻の掃海艇が触雷し、残念ながら79名の殉職者が出ております。戦後の掃海作業が海運再建に偉大な功績をしたということで、昭和27年6月23日、海上安全ゆかりの地、香川県琴平町の金刀比羅宮の敷地内にこれら79名の掃海殉職者顕彰碑が建立されました。各地官民に認識してもらう事を目的として、港を有する全国32の市長が発起人となられたようです。79名の英霊に対し、例年5月末この金刀比羅宮にて掃海殉職者追悼式が実施されています。私も何度か参加させて頂きました。航路啓開業務が終わった後も機雷は度々発見されています。少し古いデータにはなりますが、平成24年までに累計6,249個の機雷を処分しております。

終戦から5年後、朝鮮戦争は、第二次世界大戦が終結した1945年から実施している戦後復興のための航路啓開業務を実施している最中に勃発しました。朝鮮戦争では、開戦後釜山に追い詰められた米軍を中心とする国連軍が、マッカーサー将軍指揮の下、仁川上陸作戦によって劇的に態勢を挽回することとなります。その後、朝鮮半島の東海岸に位置する元山での上陸作戦実行に際し、北朝鮮によって湾内に敷設されたソ連製の機雷を除去する必要性がありました。そこで、太平洋戦争終了後ずっと掃海業務をしておりました日本の掃海部隊が米海軍の目に留まります。こうして、日本の掃海部隊が特別掃海隊として非公式に作戦に従事し、戦後復興のきっかけを作ることとなります。朝鮮戦争で北朝鮮が機雷敷設を開始したとき、極東の米海軍掃海艇は13隻しかありませんでした。そこで、航路啓開業務実施中の1950年10月から約3年間、GHQの命令により、元山に掃海艇延べ33隻を派遣しました。この作戦で掃海艇1隻が触雷をして被害を受け、殉職者が1名出ております。この日本特別掃海隊の派遣が、当時の連合国の対日不信を緩和するとともに、サンフランシスコ講和条約の締結、すなわち日本の独立に大きく貢献したと言われております。戦後の日本に掃海作業が大きく貢献したということをご理解頂ければ幸いです。

それではいよいよ本題に入ります。これより横須賀地方隊の概要についてお話をさせていただきます。はじめに沿革です。明治17年、横須賀鎮守府が開庁され、戦後、昭和27年に横須賀地方隊が編成されました。開庁当時の横須賀鎮守府庁舎は、現在、在日米海軍司令部の庁舎となっております。次に、当地方隊が所管する横須賀警備区の特徴について申し上げます。当警備区は、北は岩手県の三陸沖から、西は三重県の熊野灘に至る太平洋沿岸海域です。関係する自治体は1都15県に及びます。総海岸線は約6,000kmで、伊豆諸島をはじめ、小笠原、硫黄島、南鳥島等の離島を含んでおります。警備区内の人口は約6,600万人で、我が国の政経中枢や重要港湾・原発等が所在し、首都直下型地震等の大規模震災の発生予想地域を多く含むことを特徴としております。米海軍横須賀基地には在日米海軍司令部が置かれており、米海軍の最重要基地の一つです。次に横須賀地方隊は呉、佐世保、舞鶴、大湊と並ぶ防衛大臣直轄部隊であり、海上自衛隊の実動部隊を束ねる自衛艦隊隷下の各実動アセットが実施する訓練、作戦行動等についてあらゆる支援を行って

おります。横須賀地区に所在する施設に対する脅威や災害の発生などの情勢に応じて、自衛艦隊との調整により艦艇や航空機といった各実動アセットを運用する場面もあります。

次に横須賀地方隊の編成です。司令部となる総監部、8つの陸上部隊及び6隻の艦艇で編成されており、現在約2,000名の隊員が所属しております。

次に横須賀地区について説明致します。横須賀地区には、防衛省行政財産、つまり自衛隊が独占している土地、米軍に提供している用地、および米軍への提供地を海自が共同使用している用地があり、全体の78%が米軍専用の用地となっています。すでにお分かりのように、海自の用地は海と山に挟まれた狭いところにあるため、各部隊施設があちらこちらへと分散されていることが特徴となります。

次に陸上部隊の任務を説明致します。横須賀地方隊の陸上部隊は8つの部隊があり、主として陸上警備、自衛艦隊に対する後方支援、新入隊員への教育を担っております。

次に海上部隊の任務です。総監が直轄する砕氷艦しらせのほか、警備隊を通じて運用する多用途支援艦、輸送艇及び特務艇があります。ここで横須賀地方隊の特徴であります南極地域観測協力に従事する“砕氷艦しらせ”と、医療支援等に従事する“特務艇はしだて”について補足を致します。

まず、しらせが実施する南極地域観測協力についてです。昭和40年以来、海上自衛隊は省庁間協力として「しらせ」により実施する南極地域観測に協力しており、例年11月頃に出国、翌年4月頃に帰国のスケジュールで支援をしております。「しらせ」はとても人気があり、帰国時にはテレビに引っ張りだこで、テレビを通じてご覧になられた方もいらっしゃるかもしれません。本年度実施しています第66次南極地域観測協力について説明します。しらせは主に3つの業務、観測隊員等の人員輸送、観測に必要な資材などの物資輸送、艦上・地上における観測作業や基地設営作業等について協力をしています。今年は令和6年11月20日～令和7年4月22日の154日間と計画されています。乗員の数は約180名です。11月20日に横須賀を出港し、再度、オーストラリアのフリーマントルを経由して昭和基地に12月下旬に到着しました。年末年始は昭和基地にて観測支援物資輸送等を実施し、この1月下旬に同地を出発しまして、中継地でありますフリーマントルを経由してトッテン氷河沖でもう一度海洋観測支援を実施した後に、三度(みたび)フリーマントルを経由して、今年の4月下旬に横須賀に入港、帰国する予定で行動します。「しらせ」にもスターリンク(地球上のほぼ全域での衛星インターネットアクセスを可能にするスペースXが運営する衛星インターネットシステム)を搭載しましたので、あまり大容量のコンテンツは見られないですが、乗員は皆大喜びでした。航行中には、並走しているペンギンその他アザラシを見ることもできるそうです。「しらせ」の乗員によると、オーロラは実は写真でないときれいに見えないそうで、肉眼ではあまりはつきり見えないというように聞いています。

続いて“特務艇はしだて”について紹介します。任務は、災害派遣に際して被災地における現場指揮所としての指揮支援、それから派出先の住民に対する給食・医療活動を実施しています。また、広報活動として政府・機関及び海上自衛隊等への国内外のVIPに対する接遇を実施しております。接遇しますメンバーは、ホテル等で教育を受けた隊員で、どのようなVIPに対しても対応出来る態勢をとっております。関係自治体等との連携について一例を説明します。警備区全域においては毎年1回、防災に係る連携態勢の維持・強化を図るため、海岸線会議を開催しています。また自治体等が計画する防災訓練なども積極的に参加しています。東北・関東における連携強化のため、年間を通じて護衛艦、潜水艦などによる各地への寄港や広報活動を実施するほか、東京電力など主要な電力事業者等との協定締結なども進めております。中京方面にも力を入れており、三重の石油商業組合との協定締結や機雷戦訓練に向けた地元説明等を実施し、訓練環境の維持改善に努めております。

次に外国艦艇来航の実績です。横須賀地方隊は、来日する各国の外国艦艇への寄港を支援しております。特に今年度は、4月の英国艦艇入港を皮切りに、13か国18隻の外国の軍艦が横須賀及び東京に入港され、総監部として入港を歓迎しました。ほとんど休みがないような状況ですが、とてもありがたく、また以前に増して顔が広がったと実感しています。今年7月にはメキシコ練習帆船クアウテモックが、友好親善を目的として、遠洋航海の途上日本とメキシコの国交樹立135周年の節目に来航しました。また、8月には、リムパック2024に参加したイタリア海軍空母カヴールが入港し、艦上レセプション等が実施され、友好親善を図りました。10月にはインドネシア練習帆船ビマスチが遠洋航海で入港しました。約100名の士官候補生が乗船していましたが、そのうち約70名の規模でマーチングバンドが編成され、うみかぜ公園で行進をしました。市民の方も来てくださって、盛況であったと聞いております。韓国海軍マラドの来航では、

士官候補生、陸海空、それから看護要員の2年生の約700名が乗艦していました。当日は、部隊視察の為に横須賀入りしていた防衛大臣のほか、駐日韓国大使も来隊されており、ともに記念撮影を行いました。停泊中は当方の主催で特務艇はしだて艦上での夕食会を実施し、韓国側も艦上レセプションにより相互の交流を図りました。

次に、横須賀地方隊の主要任務のうち、特に防衛部が主として対応する事項を説明します。主な任務は、防衛警備、後方支援、爆発性危険物の処理、災害派遣、南極地域観測協力の5つです。

爆発性危険物の処理と災害派遣について補足を致します。爆発性危険物の処理については警備区内の沿岸及び海上交通の安全を確保するための任務です。冒頭にお話ししたような太平洋戦争中に敷設された機雷がまだ残っており、海中にあるあらゆる不発弾の処理を実施しております。作業の流れについて、まず地方自治体からの要請を受け、横須賀地方隊の水中処分隊が爆発性危険物等の処理（調査、識別、揚収、爆破）を実施します。物によっては動かさなくてその場で処分しなければいけない時もあり、その際は通行を遮断し処分します。東京湾ではあまり見かけないのですが、神戸港、関門海峡では浚渫すると爆発性危険物が出てくることがあり、時折ニュースで処理の瞬間が報道される事があります。

次に川でも発生する爆発性危険物処理の例について紹介致します。一昨年1月に愛知県の日光川で発見されました爆発性危険物について通報を受け、横須賀水中処分隊が対処しました。当該物件は米国製の2,000ポンド爆弾が爆発した後の残骸と識別しました。川底から揚収し、火薬を爆発させる信管がないことを確認した上で愛知県警に引き渡しました。他にも、海岸に流れ着く不審なものに関するお問い合わせを度々受けており、都度調査しています。

次に災害派遣について申し上げます。近年の災害派遣実績としましては、平成25年や令和元年の台風被害への対応、令和2年の新型コロナウイルス感染症対策としてダイヤモンドプリンセス号の支援、令和4年の知床沖における観光船事故に係る災害派遣としての“掃海艇ちちじま”の派出等があります。昨年の能登半島地震でも洋上における医療支援や入浴支援のために人員を派出しております。

ここで、横須賀地方総監部で開催するイベントについて紹介を致します。横須賀総監部地区では年に2回、基地を一般に開放しております。春は“よこすかYYのりものフェスタ”、秋は“オータムフェスタ”と称して、艦艇の一般公開を含めて各種イベントを開催しております。昨年は10月20日に地方自治体関係団体、陸上自衛隊、航空自衛隊等と合同でイベントを実施しました。来年度も実施しますので、皆様ぜひお越し下さい。“イージス艦ちびしま”というセットを用意したので、そこで子どもたちが記念写真を撮っています。「いずも」では、航空機を上下させる大型エレベータに皆さんに乗って頂いて、飛行甲板から下の格納庫に移動する体験をして頂きました。パリオリンピックの近代五種競技で銀メダルを獲得した体育学校の佐藤2等海曹も登場し、来場者との交流を図ることができました。オータムフェスタ2024のファッションショーでは、当方の総監の真殿がサプライズで登場しました。防衛大学校応援団リーダーも場を盛り上げ、盛況となりました。

横須賀地方隊は毎年自衛隊記念日の前後に横須賀地方隊主催で殉職隊員追悼式を行っております。本年は21名のご遺族の参列があり式典を執行しました。

最後に、本年3月、我々が担当する警備区域が変わります。大湊地方隊を我々横須賀地方隊の隷下に編入し、北は北海道から西は三重県まで1都1道16県の警備区として担当することになります。北海道、青森を含むことから、海岸線は約5,000キロ増え、総合して11,000キロに及びます。警備区内の人口も7,200万人に増えます。今まで以上の重責を担うことになり、引き続き頑張っていきたいと思っております。日本海溝や千島海溝周辺海溝型地震等への備えもしっかり対応して参ります。

駆け足となりましたが以上となります。ありがとうございました。



<閉会・点鐘> 13:30 高橋 会長

週報担当 梶木 洋平